

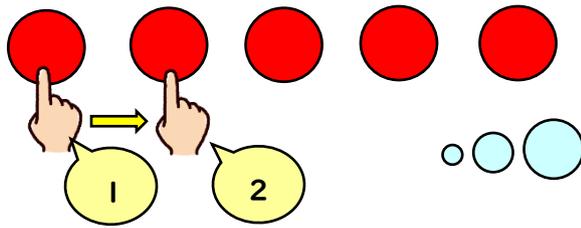


## 算数・数学につながる数の指導②

数概念が形成されていくためには、『数える』という学習が大切です。

数える対象を目で捉え、手や指を動かし、数詞を言いながら数える段階から、手や指を使わず、目で見ても数詞を言う段階へ、さらに目だけで数える段階へ進んでいきます。

☆数える活動は、数える対象を目で捉えたり、手で触ったりして、その対象の一つずつに数詞を対応させていくことです。

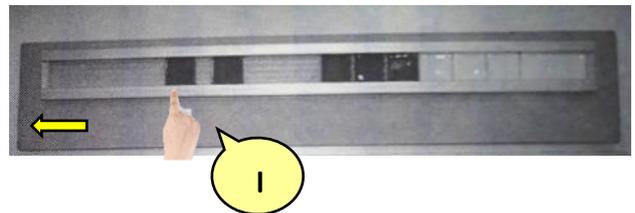


目・指・声が同期して、「1、2、3、..」と数えていきます。スモールステップでこのような力をつけていきます。

### 〈序数の理解〉

#### スライド式数え板

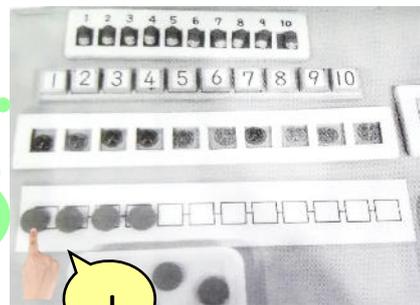
**方法** タイルを子どもの右側に寄せておき、子どもの指で一つずつ右から左に動かす。指を動かしながら、数詞を言う。



#### 固定式数え板

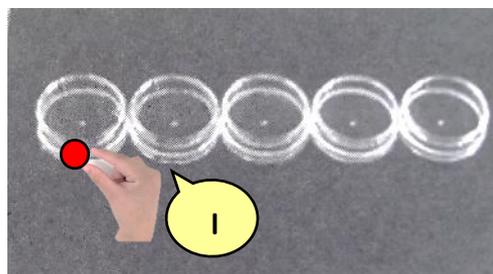
**方法** 子どもの指をタイルに置き、子どもの目がタイルを捉えていることを確認し、数詞を言う。

序数の段階だけど、基数につながるように、10まで数えたら、「10あったね」と、個数を確認します。



#### 一対一対応式数え板

**方法** 左から順に、「イチ、ニ、サン、..」と言いながら、マグネットやボールを入れる。5個入れたら、左から指を指して、「イチ、ニ、サン、..」と言う。

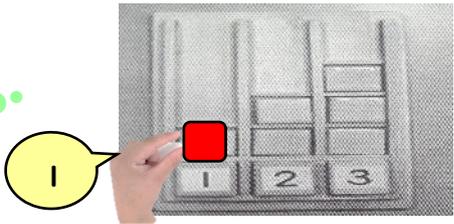


〈基数の理解〉

数系列板

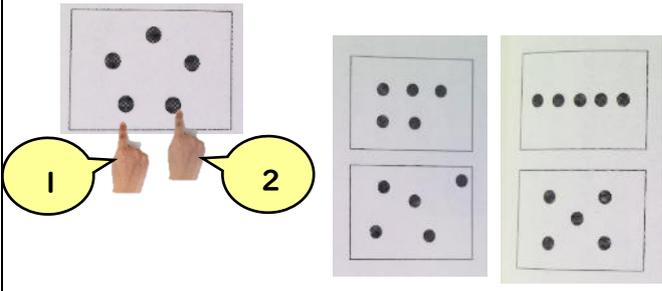
方法 左からタイルを順に置いて「1」「1、2」「1、2、3」と数える。

量を数える学習です。量概念の基礎的な力を育てます。



数図を数える

方法 色々な配置で数える。



※参考 「障害がある子どもの数の基礎学習:量の理解から繰り下がり計算まで 宮城武久(2015)」

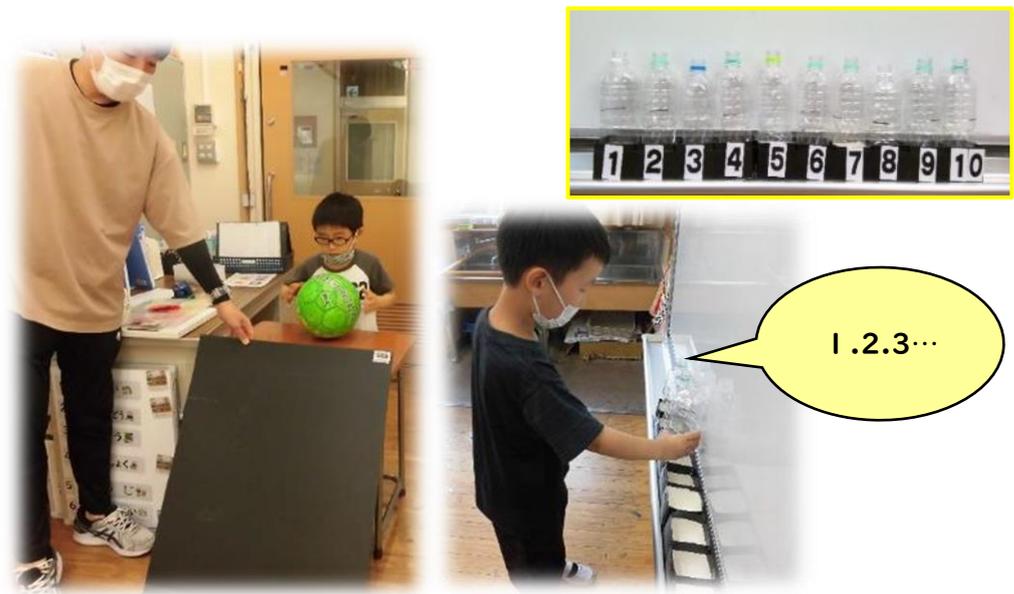


基数(集合数)…数えることができる個数などの数量を表す物  
 序数 …順序、順番(順序数)を表す物

例えば、「いち、に、さん、よん」と指さしながら数えた。全部でいくつ?「ご」と答える。  
 →序数を対応することはできた。集合の基数(量)であることへの理解に、課題があるということです。

本校でも、算数の学習に取り組んでいます。子どもたちが、「楽しい!!」と思える授業作りを大切に、学習したことを生活に般化していけるよう、具体的・体験的な活動を通して身に付けていくことができるよう支援しています。

ボウリングの活動を通して、数の学習に取り組んでいる様子です。



※連載講座「算数・数学につながる数の指導」筑波大学人間系教授 川間健之介 より